

6年1組 国語科学習指導案

日 時 9月28日第3校時
場 所 6年1組教室

1 単元名 宮沢賢治の生き方から学ぼう

2 教材名 「イーハトーヴの夢」「やまなし」「虔十公園林」「十力の金剛石」 「セロ弾きのゴーシュ」「グスコーブドリの伝記」等

3 指導の立場

(1) 教材観

本単元は、「作品の世界を深く味わおう」であるが、作品を読み味わいながら宮沢賢治の生き方を知り、その生き方から自分を見つめなおし、自分の生き方について考えをもつことを願うので、「宮沢賢治の生き方から学ぼう」という単元名にした。

そのため、本単元導入では、自分の生き方や将来の夢について各自が考え、それを書く活動を行う。それから、教材として宮沢賢治の7作品を取り扱う。

まず、「雨ニモ負ケズ」と「イーハトーヴの夢」から作者の生き方を読み取る。

次に、「やまなし」から比喩表現や文章の構成など、賢治作品の作風を感じ取らせる。

その後、「虔十公園林」「十力の金剛石」「セロ弾きのゴーシュ」「グスコーブドリの伝記」の4作品の中から、1作品を選び、同作品を選んだ児童の集団を母体に読み取りを深める。植物と共存する生き方が書かれている「虔十公園林」と「十力の金剛石」。動物と共存する生き方が書かれている「セロ弾きのゴーシュ」。人間全体の幸福を求める生き方、自己犠牲の生き方が書かれている「グスコーブドリの伝記」。これらの作品の主題は、伝記「イーハトーヴの夢」の「人間も動物も植物も、たがいに心が通じ合うような世界が、賢治の夢だった」という一節に収束される。

さらに、他の作品の読み取りの内容を全体交流し、終末の賢治の生き方をもとに自分の生き方を見つめる活動に入る。

なお、「雨ニモ負ケズ」は本校の創立30周年記念式典で6年生全員による群読発表を行う予定でいる。また、作者の生き方について知り、自分の生き方を見つめ直して本単元最後に書いた作文は、卒業スピーチとして全校の前で披露する予定である。

(2) 児童の実態

1学期に読み取りの学習で、「カレーライス」という単元を学習した。その際、児童達は登場人物の気持ちを教科書の記述に即して読み取り、それらを全体交流による読み深めを行った。自主的にグループ交流を進め、グループの仲間と協同して、読み深めるための手立てが必要である。

現在、「やまなし」以外の物語の並行読書を行っているが、多くの児童は宮沢賢治の作品に興味をもつようになり、進んで賢治の伝記や作品を読む姿が見られるようになった。本単元の導入時に行った将来の夢に対する考えが、この単元を通してより具体的なものになってくれたらよいと思う。

(3) 指導観 研究テーマに関わって

①言語活動の充実を図った単元指導計画のあり方

本単元で使用する言語活動については「読むこと」の言語活動例のA 伝記を読み、自分の生き方について考えることである。これは、取り上げられた人物の生き方や人生等を描いた伝記を読み、自分を見つめ直し、自分の生き方について考える言語活動であると考え。伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめるようにすることが大切である。

そのため、宮沢賢治の作品の中から、特に4作品を選び、教材とともに平行読書を行い、第3次で作者の生き方から学ぼうという単元のねらいに迫る活動を計画した。

②学び合いを通して、読みや表現を深める授業のあり方

○願いや見通しをもつ場、交流して学び合う場、学習を振り返る場の設定及び工夫

第一次の第一時で、学習の見通しをもち、自分の生き方を見つめ考える場を設定した。宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」を音読し、賢治の生き方を知った上で、自分の生き方について考えさせた。第二次では、グループで交流して学び合う場を設定した。自分たちで作った課題を追究する活動を通して、宮沢賢治の生き方を深く理解させるようにする。

毎時間、個人課題を設定し、グループで追究した後に学習を振り返る場を設定した。個人課題の答えだけでなく、作品の主題と賢治の生き方を関連付けながら自分の生き方を見つめ直すことができるようにした。

③協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業の在り方

○学び合いを進める話し合い指導のステップや手立ての明確化

・本単元では、グループ交流をすることで、全体交流よりも少人数にして、各自の理解を深めやすくする。ただし、より主体的・自立的な進行が必要となる。そこで、「話し合いの手引き」を作成し、活用することで、司会者および話し手・聞き手が共同的に学びあえるようにする。

・グループ交流を行う際、すべてのグループを見届け、支援することは困難である。そのために、各グループの課題を予め把握しておき、課題の価値に気づけるような発問を用意しておく。机間巡視の際、その発問を投げかけ、価値に迫れるようにする。

4 単元指導目標

◎宮沢賢治の伝記「イーハトーブの夢」と、「虔十公園林」「十力の金剛石」など賢治の生き方が表れた作品を複数読み、「人間を含めたすべての生き物の共存と幸せを願って行動した賢治の生き方」から自分を見つめ直し、自分の生き方について考えをもつことができる。

○宮沢賢治の生き方や作品の主題について進んで考え、教室の宮沢賢治コーナーや図書館などにある賢治の伝記や作品を進んで読み、自分の生き方について考えようとしている。

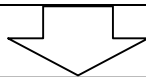
5 単元指導計画

次	時	目標	主な活動内容	指導の援助・評価
1	1	学習の見通しをもち、自分の生き方を見つめ考えることができる。	①詩「雨ニモマケズ」を音読する。 ②本時の課題を確認する。 単元の目標を確かめ、学習の見通しをもとう。 ③教師の説明を聞き、単元の目標と計画を理解する。 ④自分の生き方について考える。	・単元の導入段階から教室後ろに宮沢賢治コーナーを設置し、並行読書を促す。 【関】 自分の生き方を考え、プリントに記入している。
2	2・3	キーワードをもとに、賢治の理想とする世界や生き方を読み取ることができる。	①本時の課題を確認する。 伝記「イーハートブの夢」を音読し、賢治が理想とする世界はどんな世界か、理想実現のためにどんな生き方をしたか読み取ろう。 ②「一人読み」後、グループ交流及び全体交流を行う。	・「～と考えた。」「～と思って、～した。」「理想」「夢」「考え方」といったキーワードを板書する。 【読】 賢治の理想とする世界や生き方を読み取り、ノートに記入している。
	4	賢治の自己犠牲の生き方を読み取ることができる。	①本時の課題を確認する。 「雨ニモマケズ」を暗唱し、賢治が願った生き方はどんな生き方か読み取ろう。 ②「一人読み」の後、グループ及び全体交流をする。	・「その行動から、どんな考え方が分かるか」と発問する。 【読】 賢治の生き方を読み取ることができている。
	5	やまなしを読んで、話し合いたいことを考え、書き表すことができる。	①本時の課題を確認する。 「やまなし」を読んで、「お・は・ぎ」を書こう。 ②お・は・ぎ（思ったこと、話し合いたいこと、疑問）をそれぞれ考え、ノートに記入する。 ③全体交流で、読み取りの課題を決める。	・作品の主題に関わる内容の課題を作るため、作品を読む上で重要なことかどうかを考えさせる。 【関】 疑問や話し合いたい事をノートに記入している。
	6・7	やまなしの特徴に気づき、ノートにまとめたり、発言したりできる。	①本時の課題を確認する。 「やまなし」を読み、賢治の描く作品世界にはどんな特徴があるのか読み取ろう。 ②「一人読み」の後、グループ及び全体交流をする。	・6時間目は5月、7時間目は12月を読み取る。 ・比喩表現の豊かさに気付かせるために、表現に丸をつけさせる。 【読】 やまなしの特徴をノートにまとめたり、発表したりしている。

2	8・9	自分が選んだ宮沢賢治の作品の主題を読み取ることができる。	①本時の課題を確認する。 自分が選んだ作品を読み、作品の主題について考えを深めよう。 ②自分が選んだ作品を読み、作品の主題を考える。 ③お・は・ぎ（思ったこと、話し合いたいこと、疑問）をグループ交流する。 ④話し合いたいことを3つ決める。	・以下の作品から選ぶ。 「虔十公園林」 「十力の金剛石」 「セロ弾きのゴーシュ」 「グスコーブドリの伝記」 【読】 作品の主題を考え、「お・は・ぎ」をノートに書いている。
	10・⑪ 本時	グループ交流により、自分たちが選んだ作品の主題と宮沢賢治の生き方や考え方について考えを深めることができる。	①本時の課題を確認する。 作品の主題と宮沢賢治の生き方や願いについて、作品別グループに分かれて話し合おう。 ②各グループで決めた課題に関して交流する。	・「賢治はどんな生き方が大切だと伝えたかったのか」という共通の課題に振り返りつつ話し合う。 ・話し合いがなかなか進まないグループには、教師から解決の糸口となる発問をする。 【読】 4つの作品別グループに分かれて話し合うことを通して、自分たちが選んだ作品の主題と賢治の生き方について考えを深めることができる。
	12	自分たちが選んだ作品の主題と自分の生き方について考えを深めることができる。	①本時の課題を確認する。 作品の主題と自分の生き方について考えを深めるために、作品別グループに分かれて話し合おう。 ②各グループで決めた課題に関して交流する。	②全作品共通の課題は「この作品で賢治はどんな生き方が大切だと伝えたかったのか」「賢治の生き方から学んだことを生かして、自分はどんな生き方がしたいか」である。
3	13・14	全体交流を行い、賢治の生き方と関連付けながら、自分の生き方を見つめることができる。	①本時の課題を確認する。 シンポジウムを通して、賢治の生き方を学び、自分の生き方を見つめよう。 ②シンポジウムを行い、全体交流をする。	・シンポジストは、この作品で「賢治が伝えたかった生き方」・「賢治の生き方をふまえた自分の生き方」を発表する。 【読】 4つの作品の中の「賢治が伝えたかった生き方」を読み取り、自分の生き方考えることができる。

6年1組 指導案

	15	賢治の生き方と関連付けながら、これからの自分の生き方について考え、書くことができる。	①本時の課題を確認する。 賢治の生き方から学んだことを生かし、自分の夢の作文を見つめ直し、今後の生き方をまとめよう。 ②各自で書きまとめた後、グループで交流する。	・作品名を明記することや表現の引用の仕方等を指導する。 【書】 賢治の生き方と関連付けながら、これからの自分の生き方について考え、書いている。
--	----	--	---	--



創立30周年記念式典：6年生による「雨ニモ負ケズ」の群読発表をする。
卒業スピーチ：自分の生き方について、全校の前でスピーチする（3学期）

6 本時のねらい

4つの作品別グループに分かれて話し合うことを通して、自分たちが選んだ作品の主題と賢治の生き方について考えを深めることができる。

7 本時の展開（11／15）

過程	主な学習活動	指導・援助 評価
つかむ	① 本時の課題を確認する。 課題：作品の主題と宮沢賢治の生き方や願いについて、作品別グループに分かれて話し合おう。 ② 今日の学習の進め方とグループの課題を確認する。 ③ 自分のめあてを確認する。 Aさん：グループ交流で、自分の意見と仲間の意見を比べながら話し合いをしたい。	・自主的にグループ交流を進め、話し合いを深めるために、各グループで「話し合いの手引き」を活用することを確認する。 ・グループの課題を黒板に掲示する。 ・ペアで交流する。1～2名指名して発表させる。
考える・広げる	④ グループで交流する。 「度十公園林」 グループの課題 なぜ度十は育たない所に木を植えたのか。 まとめ 度十は自然を愛していた。だからこそ、度十はそんな植物の大切さを知り、苦勞しても植物を守り育てる生き方がしたかったと思う。それは、賢治の多くを望まず、自然を大切にするという生き方に繋がっている。 「十力の金剛石」 グループの課題 なぜ王子はイバラを、行きは剣で切り、帰りはかがんではずしたのか。 まとめ 王子は自然が一番美しいものだ気づいたから、大切にはずしたんだと思う。自然を大切にすることを賢治は伝えたかったんだと思う。 「セロ弾きのゴーシュ」 グループの課題 ゴーシュの動物たちに対する接し方はどうかわったか。 まとめ ゴーシュは動物たちと接する中で多くのことを学んだ。ゴーシュは動物に優しく接するようになった。これは、賢治の望む動物も人間も心が通い合うような世界と同じだと思う。 「グスコーブドリの伝記」 グループの課題 「たくさんのお父さん…」とはどういう意味か。 まとめ 「たくさんのお父さん…」とは、昔の自分の家族と同じような境遇の人々のこと。そんな人々のためにブドリは火山を噴火させた。賢治の自分よりも他の人のことを大切に生き方と繋がっている。	➡ 補助発問例 「度十はなぜ木を植えたのか。」 「木は育たないと言われて度十はどうしたのか。」 ➡ 補助発問例 「『十力の金剛石』で、王子の変化が分かる場面はどこか。」 「どんな体験をしたから、王子はそうに変わったのか。」 ➡ 補助発問例 「ゴーシュはそれぞれの動物にどのように接していたか。」 「ゴーシュの動物に対する接し方はどうかわったのか。」 ➡ 補助発問例 「幼い頃のブドリの暮らしはどうだったか。」 「お父さん…はたくさんいるのだろうか。」 ★評価 【読】 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。
まとめる	⑤ 自分のめあてについての振り返りをする。 Aさん：ゴーシュはもともと優しい人間だと思っていたけど、Bさんの話を聞いて、動物たちと接する中で、ゴーシュはだんだん動物に優しくなれたことがわかった。	・自分のめあてを意識して取り組んだAさんを指名して、学びの深まりをほめる。